最終評価シート

最終評価（表紙）

奈良市歴史的風致維持向上計画（平成27年2月23日認定）
最終評価（平成27年度～令和6年度）

■ 統括シート（様式1）・・・

最終評価（統括シート） **（様式１）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6

① 歴史的風致

	歴史的風致	対応する方針
1	古都奈良を代表する祭礼・行事にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ
2	地域の祭礼・行事にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ
3	民間信仰にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ
4	社寺・名所・旧跡への探訪にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ
5	文学・芸術活動にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ
6	平城宮跡の保護活動にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ
7	奈良公園にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅲ
8	奈良町のコミュニティと町家の暮らしにみる歴史的風致	Ⅰ
9	伝統的な工芸と産業にみる歴史的風致	Ⅱ,Ⅲ
１０	茶の文化にみる歴史的風致	Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ

② 歴史的風致の維持向上に関する方針

	方針
Ⅰ	奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく
Ⅱ	伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む
Ⅲ	歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する

③ 歴史まちづくりの波及効果

	効果
ⅰ	歴史的建造物の修理による地域社会の活性化
ⅱ	まちづくり団体等による交流・連携の促進
ⅲ	観光客に占める外国人観光客の増加

④ 代表的な事業

	取り組み	事業の種別
A	歴史的風致形成建造物保存整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理
B	奈良町にぎわいの家活用事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理

最終評価（方針別シート）　（様式２）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

市内に数多くある歴史的建造物のうち、価値が高いと認められ指定等を受けたものについては、行政の保護により維持されている。しかし、保護対象外の未指定の歴史的建造物は、一部、行政の補助制度があるが、老朽化や生活様式の変化等に伴う建て替えや改造がなされ、また、修理の内容の質の問題などにより歴史的風致を構成する歴史的な町並みそのものが変容してきている。

指定等を受けた歴史的建造物の適切な保存と維持管理に取り組むとともに、指定等を受けていない歴史的建造物については、実態把握のための調査を推進し、必要に応じた対策や支援策を検討する。また、歴史的建造物を保存・活用するための制度や仕組みの質を高めていく。さらに、奈良市景観計画や各種まちづくり施策等と連携し、歴史的建造物とその周辺の歴史的な町並みや自然環境等との一体的な景観づくりを進める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	文化財調査事業	平成27年度以降、建造物・美術工芸・歴史資料・庭園の調査を実施、新規市指定23件、新規登録45件につなげた	あり	H8～, H24～
2	歴史的風致形成建造物保存整備事業	平成27年度以降、41件の修理を実施	あり	H27～
3	都市景観形成地区建造物保存整備事業	平成6年度から令和6年度までに修理162件（H28終了）、修景を73件実施	あり	H6～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・市内の未指定の歴史的建造物を把握するため、平成24年度から社寺もしくは民家の所在調査と詳細調査を実施している。民家の所在調査は奈良県建築士会と協働で実施し、結果を報告書にまとめ、地域で報告会を開催した。また、特に伝統的な外観が維持されているところには文化財登録の案内をしている。

その結果、建造物においては、平成27年から令和6年の間に3件が市指定文化財に指定され、45件（22箇所）が登録有形文化財となり、行政による保護の範囲を広げることができている。

建造物調査の様子

・歴史的風致形成建造物保存整備事業では、平成29年度から修理を行う際に、教育委員会部局と連携して、建物の価値や改造の履歴を調査し、調書にまとめ、また、建築士などの専門家に意匠面の意見を聴取する仕組みを設けることで、修理内容の質の向上につながった。

・奈良市景観計画は、より現状に見合った計画となるよう、5年に1度、計画の見直しを行っている。平成28年の改正で、歴史的風致維持向上計画の重点区域を踏まえ、景観計画の重点地区の拡大を行い、連携を図るとともに、令和4年の改正においてはよりきめ細やかな地域区分や基準設定などを行った。

④ 自己評価

調査事業を実施することで、市内の歴史的建造物の状況を把握し、未指定文化財の保護につなげることができている。また、既存の制度の運用を見直すことで、未指定文化財の修理事業の質が向上し、歴史的風致の維持向上につながっている。

⑤ 今後の対応

今後も、江戸時代中期以降の社寺建築や近現代の建造物等、従来の調査では把握しきれていない歴史的建造物の把握・指定、建築士などの専門家への意見聴取を行う取組の継続等を通じ、修理事業の質の維持・向上や、景観計画の適切な運用による周辺の町並みや自然環境と一体となった景観づくりに取り組み、歴史的風致の維持向上を図っていく。

最終評価（方針別シート）　（様式２）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

伝統的な祭礼や行事等のうち文化財に指定されたものは保護が図られてきたが、生活様式の変化や、担い手の高齢化等により、指定されながらもやむなく中断に至ったり、未指定のものにおいても、承継されず失われたものもある。また、祭礼や行事の様態が変更されることにより、それらで用いられる用具等の需要が少なくなり、伝統工芸の技術が失われるといった課題もある。

伝統的な祭りや行事、伝統産業・工芸などの活動の主体は「ひと」であるため、これらの活動を誇りに思い、やりがいを感じ、守っていかなければならないという機運を醸成するために、新たな価値づけや、記録作成等により、伝統や文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育んでいく。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	地域の伝統行事発信事業	奈良町で実施されている伝統行事154件を調査、地域住民及び観光客向け冊子を作成	あり	H30～R2
2	なら工藝館活用事業	平成18年度から一刀彫、赤膚焼、奈良漆器、奈良団扇の4科目17名が伝統工芸後継者育成研修を修了	あり	H12～
3	奈良大茶会珠光茶会開催事業	平成25年度から令和5年度までの過去11年間で約54,000人が来場	あり	H25～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・平成30年度と令和元年度に、地域の伝統行事発信事業において、大学と連携し、現在実施されている地域の伝統行事の実施者への聞き取りにより実態調査を実施したことで、社会状況の変化の中で、地域の行事を誰が主体となり、どのように実施しているのか、どのように変容してきたのかを把握した。

・35歳未満の若手の職人が工房において3年間研修を受けることができる伝統工芸後継者育成研修を実施することで、不足する後継者の育成に努め、平成18年度からこれまでに一刀彫、赤膚焼、奈良漆器、奈良団扇の4科目17名が研修を修了した。

・平成25年度から、世界遺産を含む社寺や、歴史的な町並みが残る「ならまち」の茶室を会場にする等、奈良大茶会珠光茶会を実施し、過去11年間で延べ約54,000人が来場した。それにより、奈良の茶の文化や用いられる茶道具などの魅力を発信し、伝統文化を大切に思う人のすそ野を広げることにつながった。

地域の伝統行事の実態調査の様子

若手作家による製作実演の様子

④ 自己評価

地域の伝統行事の実態を調査することで、行事を守る人の営みの現状を把握し、広く紹介することができた。また、伝統工芸の後継者の育成と新たな体験イベントの実施により、人々の伝統文化・工芸に対する誇りや愛着を醸成することができた。

⑤ 今後の対応

今後も、伝統文化や工芸を体験できるイベントなどの事業を実施することで、奈良の伝統・文化の良さに触れる機会を創出し、自ら守り、活かし、伝えていく「ひと」を育んでいく。また、調査により把握した地域の伝統行事を紹介することで、地域への誇りや愛着の醸成に取り組んでいく。

最終評価（方針別シート）　（様式２）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
方針	Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

古代を起源とした文化財のイメージが定着しており、中世・近世以降に展開してきた伝統産業や伝統工芸、周辺の歴史的建造物や自然環境などの文化的側面を加えた奈良の多様な魅力を維持・向上し、発信していくことが課題となっている。

それら、神社や寺院、その周辺の市街地の歴史的建造物や自然環境等と、祭礼や行事、伝統産業や工芸などの伝統的な活動が一体となって、より一層それらが魅力的なものになるという認識を共有し、地域コミュニティや市民団体との相互連携などにより、これまでの社寺・史跡巡りを超えた新たな奈良観光の魅力を発信し、地域の活性化や観光振興などのまちづくりに展開する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	奈良町おもてなし事業	明治31年建築の駅舎の復元、地元NPO団体が観光案内所として運営	あり	H29～30
2	奈良町にぎわいの家活用事業	10年間で1,322件のイベントを実施	あり	H27～
3	入江泰吉旧居活用事業	10年間で287回の文化講座等を実施	あり	H27～
4	史料保存館活用事業	10年間で企画展示等177回、出張展示28回、講座・ガイドツアー71回等を実施	あり	H27～
5	地域の伝統行事発信事業	伝統行事約154件を調査、冊子発行	あり	H29～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

・近代の駅舎を復元し利活用することで、社寺や史跡のイメージの払拭の一助となり、近代の魅力の発信につながった。また、地元NPO団体が運営することで、まちづくり活動の拠点となり、新たな地域の祭りの創出など、主体的な活動が促進された。

・大正時代の町家や昭和初期の写真家ゆかりの文化的な施設を利活用し、主に近代から現代の様々なテーマで伝統行事やイベントなどの事業を実施することで、身近な歴史や歴史的建造物と伝統的な活動が一体となった歴史的風致の魅力の発信、地域の活性化と観光振興につながった。

・市史編纂のために集めた地域の史料を平成28年度からその地域に出張して展示する企画を実施することで、身近な歴史に触れる機会が大きく広がった。

・地域の伝統行事を調査したことで、既存の地域コミュニティの課題や課題解決のための新たな取り組み事例を把握、冊子で行事とともに新たな取り組みも紹介することで、地域コミュニティ、まちづくり団体への情報提供につながった。

京終駅観光案内所の利活用の様子

史料保存館の企画展示・解説の様子

④ 自己評価

近代の建造物の利活用や、身近な歴史をテーマにした事業の実施により、古代だけでない歴史的建造物と伝統的な活動が一体となった、新たな魅力を発信する足場が固まった。

⑤ 今後の対応

古代から現代の様々な歴史的風致の「一体的な価値」を共有するため、今後も継続して古代だけでなく、近代を含めた歴史的な建造物を利活用する事業や身近な歴史や文化に親しむ講座などの事業に取り組んでいく。また、まちづくり活動を促進するために、地域コミュニティと各種団体の連携が図られるよう、より積極的に情報を発信する仕組みの構築が必要である。

最終評価（波及効果別シート） **（様式３）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
効果	ⅰ 歴史的建造物の修理による地域社会の活性化		

① 効果の概要

歴史的建造物の修理を行ったことで、これまで活用されていなかった歴史的建造物の利活用が促進され、地域社会が活性化した。

② 関連する取り組み・計画

	他の計画･制度	連携の位置づけ	年度
1	奈良市第4次総合計画 奈良市第5次総合計画	あり	H23～R3 R4～R13
2	新奈良町にぎわい構想	なし	H29～R9
3	奈良市文化財保存事業費補助金	なし	毎年

重点区域内においては、歴史的風致形成建造物保存整備事業として、歴史的建造物の外観の修理に対して補助金を交付し、歴史的建造物の修理を補助する仕組みをつくっている。また、指定文化財の修理については、奈良市文化財保存事業費補助金を交付している。

③ 効果発現の経緯と成果

・市指定文化財を活かした地域の活動

平成28年度に奈良市指定文化財に指定された八幡神社能舞台は、江戸時代に能を行った記録があり、大正期には翁舞が行われていたが、その後、中断されていた。平成30年度に、市の補助金を利用し、文化財の保存修理事業として屋根の葺替えを行ったことを機に、舞台を使用したいという希望があり、地元主催で夕涼み会が開催された。夕涼み会では、地元芸能団体による翁舞や狂言、尾山万歳などの伝統芸能や、朗読音楽劇などのこれまでとは異なる新しい演目も演じられるなど、能舞台を活かした地域の活動が行われた。

夕涼み会の様子

・空家の利活用

歴史的風致形成建造物保存整備事業で修理を行ったことを機に、17件の空き家が店舗・住宅等に利活用されることになった。

修理後に飲食店として活用されている町家

④ 自己評価

修理を行ったことで、歴史資産の存在や価値を再認識してもらうことができ、利活用され、歴史的風致の維持向上につながった。さらに、地域住民のにぎわいの場の創出にも波及した。

⑤ 今後の対応

今後も、歴史的風致や歴史的建造物の価値を損なわないよう十分に配慮しつつ、修理のための制度を継続していく。また、関係機関や民間と連携しながら、歴史資産の積極的な利活用のための取り組みを支援できるよう努める。

最終評価（波及効果別シート） **（様式３）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
効果	ⅱ まちづくり団体等による交流・連携の促進		

① 効果の概要

地域の歴史資産である歴史的建造物や伝統行事を活かした、まちづくり団体等による活動が活発化

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	新奈良町にぎわい構想	なし	H29～R9
2	奈良市文化遺産地域活性化計画	なし	H28～R2
3	奈良市社会教育推進計画	なし	H29～R2 R3～R7

平成24年度から、官民連携による歴史的建造物の利活用が進み、地域の活性化による観光振興の寄与等を目的としたまちかど観光案内所事業や市の観光・文化施設の運営・管理が行われている。市が所有する地域の歴史的建造物を修理・改修して開館した7施設中5施設が、地域住民によるまちづくり団体やNPO法人等の民間団体等により運営・管理されている。

③ 効果発現の経緯と成果

開館年度	施設名	運営団体の種別
H24	奈良町からくりおもちゃ館	NPO法人
	旧鍋屋交番きたまち案内所 （きたまち鍋屋観光案内所）	まちづくり団体
H25	きたまち転害門観光案内所	まちづくり団体
H27	奈良町にぎわいの家	まちづくり団体
H30	京終駅観光案内所	NPO法人

・まちづくり活動の活発化

市が所有する歴史的建造物を地域住民によるまちづくり団体やNPO法人が管理・運営することで、団体の組織力強化につながり、歴史文化を活かした主体的な活動の活発化につながった。

また、施設が増えたことで、その管理者が情報を交換する交流会が自発的に開催されるようになり、平成28年度から、史料保存館と奈良町にぎわいの家の連携企画である、出張展示が28回開催されるなど、施設ごとの特色を生かした活動が行われるようになった。

さらに、まちづくりに取り組む団体（10団体）、及び賛同する大学、学生、個人が実行委員となり、地域の特色をいかしたまちづくりにつなげる「奈良町見知ル」を令和3年度から実施し、新たな取組につながった。

奈良町にぎわいの家出張展示の様子

・官民連携の広がり

地元との協働により運営される観光案内施設「旧鍋屋交番　きたまち案内所」を拠点に、きたまちに関連するテーマの講演等を行うなど、官民が連携した新たな事業などにつながっている。令和6年度からは「奈良きたまち近代建築巡り」が開催されるなど、新たな取組につながるようになった。

旧鍋屋交番　きたまち案内所

④ 自己評価

歴史的建造物を活かした官民連携事業の実施により、まちづくり団体等の組織力強化につながり、まちづくり活動が活発化し、歴史的風致の維持向上につながった。

また、市が情報発信をすることで、官民の情報共有が促進され、今後の連携強化が期待される。

⑤ 今後の対応

地域住民によるまちづくり団体等の歴史文化を活かした自主的な活動に対して、今後も活動を継続してもらうため、引き続き情報の共有や発信の支援を行い、連携事業等の実施を検討する。

一方で、 まちづくり団体等のなかには、組織力を維持していくことについて課題を感じている団体もあり、今後の支援の在り方などの検討が必要である。

最終評価（波及効果別シート） **（様式３）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6
効果	iii観光客に占める外国人観光客の増加		

① 効果の概要

市全体の観光客のうち、外国人観光客の割合の増加

② 関連する取り組み・計画

	他の計画･制度	連携の位置づけ	年度
1	奈良市第4次総合計画 奈良市第5次総合計画	あり	H23～R3 R4～R13
2	奈良市観光交流推進計画	あり	H21～H30
3	奈良市観光振興計画	なし	H29～R3

③ 効果発現の経緯と成果

訪日外国人旅行者数は、平成27年の19,737千人に比べ、令和元年は31,882千人と1.6倍に増加。奈良市でも平成27年の975千人に比べ、令和元年は3,318千人と3.4倍の大幅な増加となった。

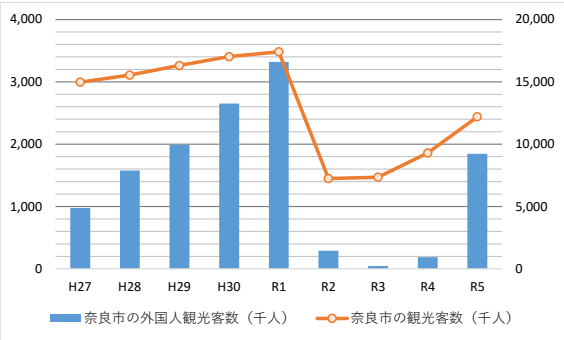
一方、令和２年以降は新型コロナウイルス感染症の拡大により全国的に旅行者数が大幅に減少したが、令和５年には日本全体で25,066千人、奈良市では1,845千人と、回復傾向にある。

なお、令和５年における訪日外国人の国籍の上位は、アメリカ13.4%、中国8.5%、フランス7.7%、オーストラリア6.9%、シンガポール6.2%と多様な地域から訪れていると評価できる一方、一層の多言語対応が求められる状況となっている。

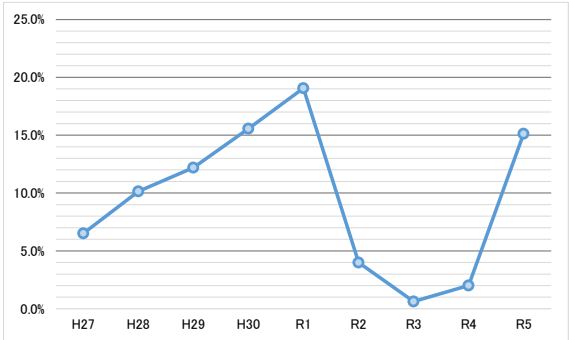
訪日外客数及び奈良市観光入込客数（外国人）の推移　（千人）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
日本	19,737	24,040	28,691	31,192	31,882	4,116	246	3,832	25,066
奈良市	975	1,576	1,990	2,651	3,318	289	46	187	1,845

出典：訪日外客数は日本政府観光局（JNTO）、奈良市観光入込客数（外国人）は奈良市観光入込客数調査報告書



奈良市観光入込客数



奈良市観光入込客数に占める外国人観光客比率（%）

④ 自己評価

自然体験や歴史･文化施設における事業の支援、日本政府観光局（JNTO）認定外国人観光案内所（奈良市奈良町南観光案内所、奈良市京終駅観光案内所）の整備により多言語対応が可能となったことで、外国人観光客の増加につながった。

⑤ 今後の対応

今後も外国人観光客に訪れてもらうため、奈良市観光協会と連携して、外国のメディアや旅行会社、現地の人々等に、奈良市のプロモーション活動を行っていく。

また、観光客が安心・安全かつ快適に観光できるよう、更なる多言語対応の強化を実施し、加えてピクトグラム化といった案内の充実や観光施設等のバリアフリー化、トイレの洋式化など、ユニバーサルデザインを推進していく。

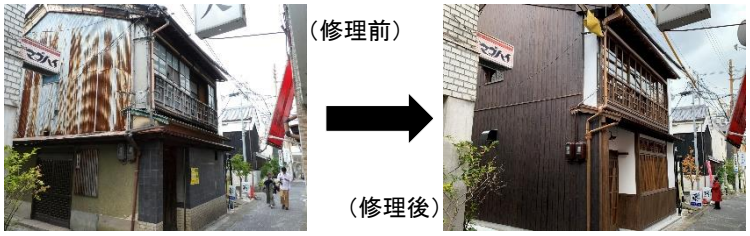
最終評価（代表的な事業の質シート） **（様式４）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
取り組み	A 歴史的風致形成建造物保存整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

重点区域（奈良町及び奈良公園地区）内にある歴史的風致形成建造物及び候補物件の外観の修理（現状維持修理、復原修理）を実施する事業に対して、補助金を交付している。

修理に際して、教育委員会部局と連携し建物の価値、改造の履歴等を調査、改造状況等を示す資料を作成し、補助事業者に渡している。また、痕跡が不明な場合は、建築士などの専門家で構成される団体に意匠面の意見を聴取する仕組みを設け、必要に応じて、事業中の痕跡を確認し記録を残すなど、質の担保に努めた。



事業実施前後写真

修理方針の説明資料

② 自己評価

事業を実施した41件中、事業実施前に空き家だった物件は17件あったが、いずれも事業を機に利活用が促進され、奈良町の町家の暮らしにみる歴史的風致の向上につながった。また、事業後に来訪者が訪れることができる施設にした物件（予定も含む）は13件あり、観光客の新たな歴史探訪の拠点として、地域の魅力向上と地域活性化が期待できる。

修理物件の各種調書を作成することで、修理内容の判断の理由等が明確にできた。また、事業化につながらなかった物件についても、所有者の理解促進、意識向上につなげることができた物件もあった。

一方で、修理事業実施中の物件の痕跡調査等により得られた新たな知見を、費用や工期等の問題で修理の内容に反映できない場合もあり、今後、奈良町の歴史的風致の維持向上に活用するための方法について検討する必要がある。

外部有識者名	大阪市立住まいのﾐｭｰｼﾞｱﾑ大阪くらしの今昔館館長（奈良女子大学・京都大学名誉教授） 増井　正哉氏
外部評価実施日	令和6年12月17日

③ 有識者コメント

17件が実施され、重点区域の歴史的風致の維持・向上につながったと評価できる。修理事業では、痕跡調査に基づく復原検討など、適切な手順を踏まえて事業が進められた。経験の深い専門家、教育委員会の文化財担当者との組織的連携によって、その精度も高い。修景事業にあたっても、その組織的な進め方が外観の意匠の決定に有効に機能している。事業にあたっての調査と復原検討、意匠決定のプロセスは記録的価値が高い。アーカイブ化し、将来に活用されることが望ましい。事業の対象物件は地域でも注目度が高く、保存活用のモデルとなる。事業採択にあたって、活用計画とその体制、さらには地域コミュニティとの関係性等も考慮することが望ましい。

④ 今後の対応

歴史的風致形成建造物の修理の質を担保するためには、適切な調査、記録の保存、修理内容の協議における専門家との連携、所有者や施工業者への説明など、一つずつ丁寧に取り組むことで質の向上が見込めると考えられるため、今後も適切に事業を推進していく。

また、その過程で得た新たな知見を修理中の物件に反映できない場合があることと、人的リソースが不足するなかで技術水準を維持することが今後の課題となるため、事業実施フローをシステム化するなどにより、水準の維持に努めていきたい。

最終評価（代表的な事業の質シート）

（様式４）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
取り組み	B 奈良町にぎわいの家活用事業	種別	歴史的風致維持向上施設

① 取り組み概要

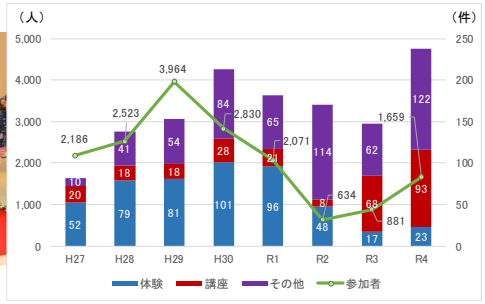
大正６年に建てられた登録有形文化財の町家を指定管理制度で管理している。二十四節気をテーマに奈良町の生活文化や町家での暮らし等を体験する事業等を年間約200件実施、観光客が気軽に文化体験できるよう日常的にイベントを実施することで、年間約60,000人の来場者が訪れている。

また、地域住民が集い楽しみ伝えあう活動拠点として活用するために、地域住民が講師をする講座や地域のボランティアの協力により展示制作を行うなどの工夫を行っている。

町家の暮らし体験の様子（竈）

夏休み町家探検
畳の下を確かめる子どもたち

昔遊び体験（カルタ）
外国人観光客も気軽に参加する



事業実施数と参加者の推移

② 自己評価

町家を利活用した施設であるため１事業の参加者数は限られるが、少人数であることを活かし、参加者同士が交流できるようにスタッフから積極的に対話をするなどの工夫をしている。それにより、イベントの参加者から地域の伝統工芸品や美術品の出品協力の申し出があり、企画につながるなど地域に根差した事業が実施できている。今後もこのような施設の活用を通じて地域で受け継がれる資産を活かす取り組みが期待できる。

また、親子を対象としたイベントや近現代の奈良町の歴史文化をテーマにした市民参加型のイベントを実施することで、世代を超えて奈良町の歴史や魅力を再発見し、価値の共有を図っている。さらに、毎年、近隣の小学校の町家暮らし体験の授業を受け入れることで、身近に伝わる伝統文化に触れ合う機会の提供を行っている。

外部有識者名	奈良女子大学名誉教授　瀬渡　章子　氏
外部評価実施日	令和6年12月12日

③ 有識者コメント

・奈良町の中でも規模・質ともに優れた町家において、一般公開により多数の市民や観光客を受け入れ、多彩な事業が継続的に展開され、地域に活気を与えていることは高く評価される。
・四季折々の行事に合わせた細やかなしつらいや飾りつけ、茶会、かまど体験会、美術展示など町家の特徴を余す所なく活用したイベントは、生活文化の保存と継承につながるとともに、訪れる人々に、先人の知恵に学び、現在の暮らしを見つめ直す機会を提供している。
・かつて一般の住まいに見られた畳、床の間、襖、障子などを知らない子どもが増えている。校外授業の受け入れは、伝統的な住まいの要素や暮らし方を学ぶ貴重な場を提供しており、今後も事業の継続が期待される。
・来訪者に占める外国人割合がコロナ禍前を超えて一層増加の傾向にある。飛び込みで気軽に参加できるイベントが用意されているのは好ましい。日本の伝統文化、生活様式への理解を深めてもらうためにも、外国語での情報発信の一層の充実と工夫が求められる。

④ 今後の対応

奈良町にぎわいの家は奈良町の町並み景観上重要な建物であり、大正から昭和初期頃の町家での暮らしや生活文化を体験できる施設、観光の拠点として、今後も運営管理に力を入れていきたい。また、来訪者の満足度や観光の質を高めるためにも、企画内容を深化させる工夫を考えていきたい。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	1 古都奈良を代表する祭礼・行事にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

奈良の社寺では、奈良が古代日本の都であった時代から育まれてきた祭礼や法会が営まれている。わが国の歴史を彩る著名な人物に関わる社寺が多く残されており、その由緒にまつわる故事や伝承にちなんだ特色ある祭礼・行事が行われ、各地から来る多くの参拝者や見物客でにぎわっている。これらの祭礼・行事は、古くからの伝統を受け継ぎつつ、各時代の政治や社会の影響も受けながら今日まで展開してきた。このように奈良では、わが国の歴史と伝統を物語る社寺や古い町並みが残る市街地に、古代以来の伝統を有する祭礼・行事が受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

平安時代から続く春日若宮おん祭、鎌倉時代初期に始まる興福寺の薪御能などの祭礼・行事は、社寺と各保存会の連携により執り行われている。社寺境内は史跡として保護し、市街地では奈良市景観計画による規制等を行って、祭礼・行事の舞台となる場所の歴史的な環境の維持を図っており、奈良市無電柱化推進計画事業にも取り組んでいる。

開催時期には史料保存館や奈良国立博物館等が企画展やイベントを催し、観光振興にも官民協働で取り組んでいる。こうした取り組みを通じて、祭礼・行事が良好な状態で保存・継承され、多くの市民や観光客に価値と魅力を伝えることにつながっている。

●春日若宮おん祭

（一財）春日若宮おん祭保存会は、昭和54年の重要無形民俗文化財指定を機に結成されて以来、祭の保存・継承に努めるとともに、史料に基づき、すたれた儀式の復興にも取り組んできた。市や県も適宜助言を行い、装束や用具の修理・新調等の際は国とともに補助するなど支援してきた。見どころとなる「お渡り式」には、芸能団体等の伝統的な参列者に加えて住民・企業・自治体関係者なども参加し、観光振興の点から行事を広く紹介する取り組みを行う奈良市観光協会に市が補助するなど、官民協働で行事を盛り上げている。

こうした取り組みにより、「お渡り式」「お旅所祭」等の中心行事が行われる12月17日前後の４日間は毎年数多くの人でにぎわう。令和元年度には、伝統芸能の継承と活用を通じた観光振興等への多年にわたる顕著な貢献が認められた春日若宮おん祭保存会が、（一財）地域伝統芸能活用センターの高円宮殿下記念地域伝統芸能賞を受賞した。

おん祭　お渡り式の様子

史料保存館ガイド付きツアー「もっと知りたい"春日若宮おん祭"」

「おん祭保存会」 地域伝統芸能大賞支援賞
能楽師 丸尾万次郎さん
東京・地域伝統芸能若手育成センター 県関係者は初受賞

春日若宮おん祭保存会受賞を知らせる記事（奈良新聞平成31年3月12日朝刊）

③ 自己評価

伝統的な祭礼・行事に支援し、官民が協働して盛り上げることで、多くの人々が集まり、にぎわいの空間が現出している。

④ 今後の対応

奈良市無電柱化推進計画事業や景観計画に基づき奈良らしい景観のまちづくりを進めることによりにより、祭礼・行事を継承するための良好な環境づくりに努め、今後も保存会や奈良市観光協会等と連携し、祭礼・行事の継承、にぎわいの創出に努めていく。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6
歴史的風致	2 地域の祭礼・行事にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

奈良市各地域の社寺の社殿や堂宇、社叢は地域の歴史を象徴する重要な資産であるとともに、地域の景観を特徴付けるものともなっている。そこで行われる祭礼や行事には、神楽や翁舞、御田、相撲、太鼓踊り、万歳、題目立など、中央の影響を受けながらも地域の個性を反映させて発展してきた多様な民俗芸能がみられる。こうした地域の祭礼や行事は、自然や神仏を崇敬する意識を現在に伝え、人と人とのつながりを保ち、共同体としての集落や市街地を維持することにも一定の役割を担ってきた。社寺、集落や市街地が織り成す美しい景観を背景に繰り広げられる祭礼や行事は、地域の個性あふれる豊かな歴史や文化を象徴するものとなっている。

② 維持向上の経緯と成果

国・県・市指定の無形民俗文化財に関する次の事業に市から補助金を交付することで、伝統芸能の確実な継承を図った（団体によってはコロナ禍による活動中止中は補助金交付を控えた期間がある）。

国指定：「題目立」の後継者育成（毎年度）、「奈良豆比古神社の翁舞」の用具の修理・新調（平成28年度）、県指定：「田原の祭文・祭文音頭・おかげ踊り」の後継者育成（令和3・4年度を除く毎年度）と伝承基盤整備（令和4年度）、「八島の六斎念仏」の後継者育成（令和3年度を除く毎年度）、「大柳生の太鼓踊り」の保存と後継者育成（令和2年度まで毎年度）、「吐山の太鼓踊り」の保存と後継者育成（令和2～4年度を除く毎年度）、「大柳生の宮座行事」の伝承基盤整備（平成30・令和2年度）、「大保の宮座行事」の伝承基盤整備（令和2年度）、市指定：「手向山八幡宮の御田植（オンダ）」の伝承基盤整備（令和2年度）

文化財解説板整備事業として、平成27年度から37基の解説板を新設・更新しており、祭礼・行事に関しては「登弥神社の粥占い」の解説板更新、「大保の宮座行事」の解説板新設を行った。また、文化財調査事業の実施により、登弥神社の本殿などの建造物5件は令和2年度に登録有形文化財となった。

東部地域の祭礼行事の歴史を伝える八幡神社能舞台、春日神社拝殿（舞台）、長尾神社能舞台を調査して平成28～30年度に市指定文化財に指定した。また令和元年度に八幡神社・長尾神社の能舞台と旧村指定の「桃香野の能楽」を見学する文化財講座を催したことで、市民の伝統行事に対する理解を深めることができた。

設置した「登弥神社の粥占い」の解説板

文化財講座（「桃香野の能楽」の見学）の様子

●舞台の活用と地域の芸能

八幡神社能舞台では、平成28年度に市指定に指定され、平成30年度に屋根の修理が行われたことを機に、令和元年度に地元主催の夕涼み会が開催され、東部地域の芸能のひとつである能楽や狂言、尾山万歳などが演じられ、文化財の利活用が広がった。

八幡神社能舞台での夕涼み会

③ 自己評価

国・県の無形民俗文化財を伝承する団体が行う事業に補助金を交付したことで、それらが適切に保存・継承されている。また、文化財指定や文化財の周辺環境の整備、普及啓発事業を推進することにより、地域の祭礼・行事についてより広く理解してもらうことができ、歴史的風致の維持向上につながっている。

④ 今後の対応

地域の祭礼・行事の中でも特に重要である無形民俗文化財に関する事業に対し補助金交付を継続して行い、それらの保存継承を図るとともに、さまざまな機会をとらえて普及啓発を進める。

最終評価（歴史的風致別シート） **（様式５）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	３ 民間信仰にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

奈良市では、中世以来、仏教関係の春日講、伊勢講、地蔵講、庚申講、観音講といった講が多数あり、春日信仰、伊勢信仰、地蔵信仰、庚申信仰、観音信仰などの民間信仰として地域に根付き、家や会所、社寺といった場で、現在は多くが自治会などの地域共同体が主体となり、または積極的に関わりながら受け継がれている。

そのため、多くの町の中に古くからの会所や祠堂が残り、毎年・毎月の決まった日の祭りや行事、日々の地蔵参りや献花等などの信仰の営みが暮らしの一部となって、日常の風景のなかにも現れており、歴史的な町並みと一体となり伝統と情緒を感じさせる景観がつくりだされている。

② 維持向上の経緯と成果

地域の伝統行事の実態を調べるため、重点区域内の自治会長にアンケート調査と電話調査を実施し、実施状況を確認し、地域の伝統行事を紹介する冊子を作成、発行した。そのうち地蔵盆については、地区内の寺院52箇所での実施状況を電話調査により確認し、自治会実施の地蔵盆と合わせて50件の地蔵盆の現地調査を実施し、行事の現状と変化を把握できた。また、奈良町の信仰をテーマに、ボランティアガイドと協働した地蔵盆を巡る講座を実施した。

地域の伝統行事の紹介冊子
左上）神社の祭り、右上,下）地蔵盆

●講の現状と変化

町内の有志で構成されていた講などでは、少子高齢化により参加者が少なくなったことから、講の担い手を自治会が代わりに継承するようになったところがあるなど、地域の実情に合わせて変化していることが確認できた。また、参加者が少なくなった地蔵盆では、途絶えていた数珠繰りを復活させたり、子どもの楽しめる催しを増やし、町内の子どもだけでなく近隣の子どもの参加も受け入るなど、参加者を増やすための工夫がみられた。

●地域住民の活躍

地区内の公民館によって、平成30年度から地域の伝統行事に愛着を持ち、地域住民同士の交流を図ることを目的に、親子で地蔵盆を巡る事業が実施され、地域住民が講師となって地域の「お地蔵さん」を説明するなどの取組が行われることになった。

左上）数珠繰りの様子　右下）公民館事業で地蔵盆をまわる子どもたち

③ 自己評価

地域の伝統行事の実態を調査し、紹介冊子を作成することで、身近に伝わる伝統文化の価値の再認識につながった。

また、 地域の伝統行事を取り上げた公民館事業が実施されることで、地域住民が自ら解説を行うなど、地域への誇りや愛着の醸成につながっている。

④ 今後の対応

地域の伝統行事の実態について今後も必要に応じた詳細調査を実施し、価値が共有され、新たな担い手を増やせるよう、また、公民館事業のような地域住民やまちづくり団体が主体となって地域の誇りや愛着を育む活動が重点区域内の全体に広がるよう情報提供などの支援を積極的に実施していく。

最終評価（歴史的風致別シート） **（様式５）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	4 社寺・名所・旧跡への探訪にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

古くは貴族や僧侶による社寺巡礼に始まり、近世には町民や農民も含めた旅人による観光へ展開し、近代以降交通網の発達や遺跡研究の進展、奈良の再評価などの動きに伴って活発になった奈良の社寺・名所・旧跡への探訪は、現在も、その主体や対象を広げ、また、探訪の動機を変化させながら、多様な形で展開されている。

社寺やお祭りなどの行事、歴史や文化、周囲の豊かな自然環境などの資源をより多くの人に知ってもらい、探訪を楽しんでもらうため、地域のまちづくり団体等により、様々な地図や案内板が作成されている。

② 維持向上の経緯と成果

平成28年度から平成30年度にかけて明治時代に建てられた駅舎を改修し、平成31年2月に地域のNPO法人が運営するまちかど観光案内所である「奈良市京終駅観光案内所」を開設した。これにより、重点区域内で地域住民が主体となって運営するまちかど観光案内所が3か所となった。

奈良市京終駅観光案内所開所式の様子

また、奈良町にぎわいの家活用事業やまちかど観光案内所等のソフト事業により、市が主催、または、まちかど観光案内所を運営するまちづくり団体と共催し、ボランティアガイドと協働・連携しながら、平成27年度から継続してまちあるきイベントを開催し、地域の歴史資産の再発見につながった。

平成27年度から令和6年度までに観光案内板を21基設置し、さらに、新たに観光解説板26基、指示標識8基を設置したことで、回遊性が向上した。

●まちづくり活動

まちづくり団体によって、新たに「奈良町家めぐりマップ」が作成され、まちあるきツアーが開催されるなど、民間主体での歴史資源を活かす取り組みがみられるようになった。

奈良町家めぐりマップ

③ 自己評価

地域の歴史資産を市が保存・整備し、その運営を地域住民が設立したNPO法人やまちづくり団体が行うなど、地域で受け継がれてきた資産を地域住民が主体となって活かす官民連携の取り組みが行われている。

それにより、まちづくり団体等の主体的な取り組みが行われるなど、歴史資源を活かしたまちづくりが促進されている。

④ 今後の対応

今後も、地域住民やまちづくり団体と協働し、地域の歴史的資産の掘り起こしなどによる地域の活性化や観光振興などのまちづくりを推進していく。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	5 文学・芸術活動にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

奈良の地は、古都として育まれてきた豊かな歴史や文化、自然環境の魅力のもと、和歌の題材となり、古くから多くの文化人が訪れるなど、歴史的風土を舞台として数多くの文学・芸術作品が創作されてきた。

これらの作品の創作は、大和路の風景を発表した写真家入江泰吉のようなプロに限らず、一般市民や観光客などのアマチュア層をも巻き込む形で受け継がれてきた。また、奈良は近代以降文化人の交流が活発に行われ、志賀直哉を中心とした昭和初期の「高畑サロン」などのように、文学・芸術について学び、語り合える場として、現在に至るまで様々な活動が展開されている。

このような古代の万葉歌から現代の映画まで時代とともに多様に展開されてきた文学・芸術の創作活動と、文学・芸術を通じた人々の交流活動が続けられ、文化的雰囲気に満ちた歴史的風致がつくりだされている。

② 維持向上の経緯と成果

平成24年度から、映画を通して奈良の魅力をアピールし、文化振興及び観光経済活性化を図ることを目的として、特定非営利活動法人なら国際映画祭がなら国際映画祭を2年に1回開催しており、市は補助金を交付し支援している。

約2万人以上が来場する映画祭は、奈良公園を中心に様々なプログラムが実施されており、歴史的な場所を会場に開催することで、奈良ならではの芸術活動に繋がっている。2020年以降はオンラインやSNSでの動画配信などを併用しながら開催しており、幅広い参加者の獲得につながっている。

また、奈良を代表する写真家である入江泰吉の旧居を保存し、一般に公開する施設として平成27年度に入江泰吉旧居を開館した。入江氏の当時の創作の様子がわかる暗室や書斎などを見ることができ、コロナ禍以前は毎年平均8千人が来場した。

入江氏を偲ぶ講演や、周辺の歴史文化を学ぶ講座や周辺の施設と連携した企画が毎年40回前後開催され、地域のまちづくりの拠点にもなっている。

平成25年度から2年に1回、入江泰吉記念写真賞・ならPHOTO CONTEST開催事業を実施している。より質の高い写真賞を実施し、また事業の周知を図るため、令和元年度は市内だけにとどまらず、奈良県、東京都での巡回展を実施した。

上下）なら国際映画祭の様子

入江泰吉旧居活用の様子（講座）

受賞した作品の巡回展の様子

③ 自己評価

奈良公園のような歴史的風土を舞台とした芸術活動への支援や、文学・芸術を通じた人々の交流活動により、新たな芸術作品を創作する風土や文化的雰囲気が醸成されている。

④ 今後の対応

文学・芸術活動の舞台となる奈良の歴史都市としての魅力を向上させる取り組みを継続する。また、今後も継続して文学・芸術活動の意欲をそそるソフト事業に支援することで、新たな文化・芸術の創出や人材の育成を図る。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	6 平城宮跡の保護活動にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

平城宮跡保護の取り組みは、江戸時代末期の調査研究にはじまり、明治以降、建碑や土地の買い取り等の整備が行われてきた。現在も、発掘調査、復原を含む遺跡整備、歴史公園としての整備などが進められ、史跡の風景づくりの取り組みがなされている。古都奈良を象徴する平城京の中心である平城宮の遺跡を舞台として、その歴史的な価値を称え、次の世代に受け継いでいこうという活動は、行政を主体としつつもさまざまな民間も関わって多様な取り組みが進められている。古都奈良固有の歴史的風土を舞台として、世界的な遺跡を後世に伝えるための保護活動が、連綿と受け継がれ、歴史的風致を形成し、平城宮跡の価値を一層高めることにもつながっている。

② 維持向上の経緯と成果

特別史跡平城宮跡管理事務所等業務を担っている一般社団法人平城宮跡保存協力会が行う自主事業（平城宮跡散策マップ製作・配布、巡回、案内、美化清掃等）に対して、毎年、補助金を交付した。

また、NPO平城宮跡サポートネットワークほかの各種団体が参加して毎月行われている「平城宮跡みまもり隊」の防火清掃活動に市も参加することで、民間と行政が協働して平城宮跡の防火・防災、美化を進めることになった。

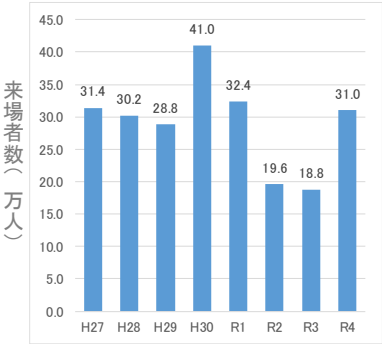
平城宮跡みまもり隊の清掃活動の様子

文化財講座開催事業の一環として、平成28年度から平城宮東院庭園等を見学する講座を、コロナ禍中の令和2・3年度を除き毎年催している。それにより平城宮跡の保護とその歴史的風致の重要性への理解を深めることができた。

文化財講座（平城宮東院庭園の見学）の様子

●歴史公園の整備

平城宮跡では、奈良文化財研究所による発掘調査が進められ、第一次大極殿院で南門の復原工事が完了するなど、整備が着実に進められている。また、国と県が化学工場の跡地を整備し、平成29年度末に平城宮跡歴史公園「朱雀門ひろば」の供用が開始され、復原整備された朱雀大路を中心に、復原遣唐使船、展示ガイダンス施設「平城宮いざない館」、食事・物販施設、交通ターミナルなどが設けられた。これを機に、平成30年の平城宮跡への来場者数が増加した。その後、コロナ禍により来場者数は落ち込んだが、令和4年はコロナ禍以前の水準まで回復することになった。



平城宮跡の来場者数
（文部科学省の行政事業レビューより）

③ 自己評価

国・県・民間と市が連携しながら平城宮跡の保護活動に着実に取り組み、歴史的風致が良好に維持されている。

公園が整備されたことによって、これまでより多くの人が訪れるようになり、平城宮跡の賑わいが創出された。

④ 今後の対応

今後も復原整備の推進にともなって平城宮跡の歴史的風致の重要性がさらに高まることが予想され、関係機関や民間と連携しながら継続的に保護、活用や情報発信に取り組む。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	7 奈良公園にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ　奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅲ 歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

奈良公園は、東大寺・興福寺・春日大社、若草山、原始林の広がる春日山、天然記念物である奈良のシカといった、古都奈良を象徴する歴史・文化・自然資源を包含し、明治期における公園の成立以降、多くの人々を魅了し、国内外から多くの観光客が訪れる。歴史・文化・自然の融合した歴史的風土のもとに、信仰や観光、風物詩となる祭りや行事、鹿との共生、地域の人々の日常生活といった、園内の各要素がもつ古くからの歴史を反映した重層的な活動が繰り広げられている。

② 維持向上の経緯と成果

春日大社で平成22年度から実施された国宝春日大社本社本殿ほか13棟保存修理事業が平成28年度に完了し、興福寺では史跡興福寺旧境内保存修理事業が平成10年から継続実施されている。これらの事業に対し、市から補助金を毎年交付した。興福寺では平成30年度に中金堂の再建も完成し、往時の姿を感じられる場所としての魅力が高まった。

史跡興福寺旧境内保存修理状況

春日山原始林ではナラ枯れ被害が、県のナラ枯れ等対策事業により、減少していることが確認されることになった。

奈良のシカに関しては、一般社団法人奈良の鹿愛護会に対して市から毎年補助金を交付した。それにより頭数調査などの調査研究、負傷・疾病シカの救助、鹿寄せ、角きりなどが継続して行われ、シカの健全な育成と保護の啓発が推進された。

奈良公園内サイネージの外国語啓発

史料保存館では毎年度さまざまなテーマで展示事業に取り組み、その中で興福寺薪能、正倉院、春日大社万灯籠、シカ、角きりなどをテーマにした展示や解説、現地ガイドツアーを行った。

●外国人観光客の増加に伴う活動

令和5年の奈良市の外国人観光客は1,845千人で、コロナ禍中の令和4年の187千人から大幅に増加している。「ウィズコロナ」が浸透してきたこともあり、今後さらに奈良市の外国人観光客の増加が見込まれる。また、奈良のシカに親しむ外国人観光客の姿も多く見られるようになり、それに伴って事故防止や理解促進のための看板設置や、サイネージでの外国語の啓発も進められた。

史料保存館展示解説の様子
H30.12

③ 自己評価

文化財の所有者や関係者への補助、催事開催などによって、古都奈良を象徴する文化財の保存活用を推進し、魅力ある歴史的風致を維持することができた。

④ 今後の対応

史跡興福寺旧境内保存修理事業などに対する補助金交付等を通じて文化財保護を推進するとともに、引き続き奈良公園の価値を保全し、魅力を発信するよう取り組んでいく。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	８ 奈良町のコミュニティと町家の暮らしにみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ 奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく		

① 歴史的風致の概要

奈良町は、中世以降大和の中心地として発展を遂げるなかで、祭りや行事、伝統産業・工芸をはじめとしたさまざまな文化を成熟させてきた。それらの文化のなかでも、各会所において行われてきた祭りや行事などにより、共同体（コミュニティ）を構成する人々を強く結び付け、暮らしの中に地域や近隣との関わりが受け継がれてきた。また、各町家では、生活様式の変化に対して改造を施し柔軟に対応しながら、町家での暮らしが継承され、歴史的な佇まいを残す町並みが維持され、奈良町に暮らす人々は、自分たちが住み、商い、憩う空間を、歴史的な景観を基礎としながら、それぞれ個性ある空間となるよう工夫する姿勢がみられる。

② 維持向上の経緯と成果

歴史的風致形成建造物として33件の建造物を指定し、そのうちの町家や寺院29件は奈良町のコミュニティと町家の暮らしにみる歴史的風致を維持向上するものとして指定した。

また、歴史的風致形成建造物保存整備事業で修理した38件のうち17件で、修理を機に建物の利活用が進められることになった。

※歴史的建造物は、修理事業後に指定しているため、指定件数と修理件数が異なる。

重点区域内にある町家の利活用を促進するため実施する町家バンク事業において、これまで12件の町家の紹介が成約し、累計の成約件数が21件となった。成約した12件は、住居（２件）、店舗（６件）、住居兼店舗（１件）、ゲストハウス（２件）、その他（１件）として利活用されることになった。

（活用前）　（活用中）

町家バンク事業による利活用の様子

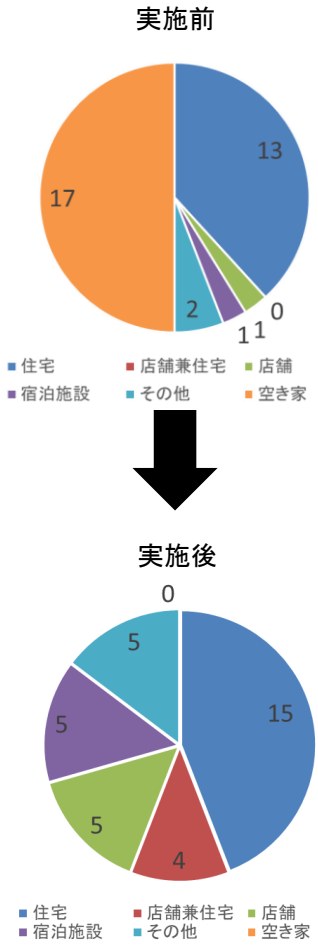
●歴史的建造物の利活用

観光客に人気のエリアでは、民間事業者主体による歴史的建造物を活用した店舗等での利活用が積極的に行われるようになった。

③ 自己評価

歴史的風致形成建造物の指定と修理事業により、町家がつくりだす景観が保全され、また、事業を機に空き家の利活用が促進され、新たな観光拠点が整備されるなど、町家の暮らしにみる歴史的風致が維持向上した。

町家の利活用が進むことで、地域コミュニティに新規転入者が増えて新たな交流につながるなど、奈良町のコミュニティの維持向上が期待できる。



歴史的風致形成建造物保存整備事業（修理事業）と町家バンク事業実施による用途の平成28年度から令和5年度までの変化（累計）

④ 今後の対応

良好な景観と新たな観光拠点の創出のため歴史的風致形成建造物の指定と修理事業を今後も継続して実施していく。また、空き家の積極的な利活用のため、町家バンクの登録件数を増やすための取り組みを検討していく。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	９ 伝統的な工芸と産業にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

奈良には、「墨」「筆」「奈良漆器」「赤膚焼」「奈良人形一刀彫」「奈良晒」など、社寺との結びつきや人々の生活との深い関わりのなかで、工人たちに引き継がれ、成熟されてきた伝統工芸が伝えられている。これらの工芸品は、南都諸白として珍重された「酒」やその製造過程で出る粕を用いた「奈良漬」などとともに、近世から現在に至る観光都市としての展開のなかで地場産業として発展してきた。現在は小規模ながらも、「本物」を創り出す技術を受け継ぐ生産者が奈良町をはじめ市内各所に点在し、社寺の文化や生活文化とともに育まれた伝統工芸や伝統産業の豊かなまちとして、製作の場となる歴史的建造物や市街地と一体となった歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

平成12年度に開設した「なら工藝館」を拠点に、工芸の振興・発展を目的とした各種事業を実施している。

施設の指定管理者、工芸職人で構成される実行委員会、奈良市が共催して、10月から11月にかけて、工芸品の展示・販売・実演、制作体験ができる奈良工芸フェスティバルを開催し、毎年約3,000人が来場している。また、平成18年度から、奈良の伝統工芸の技術・技法を後世に伝えるため、35歳未満の若手の職人が工房において研修を受けることができる伝統工芸後継者育成研修を実施し、これまで一刀彫、赤膚焼、奈良漆器、奈良団扇の4科目17名が修了している。

研修生は、3年間の研修期間中、受け入れ先である工房で毎週2～3回の指導を受け、また、なら工藝館で開催される工芸教室に参加し、毎年1回以上各種展覧会に出展するといった自己研修を行うことで技術を研鑽。研修終了後は、個人で制作活動を続けながら、なら工藝館事業への協力、ふるさと納税の返礼品の提供、「奈良大茶会珠光茶会」での展示・実演等により、活躍の場が広がることで、技術を受け継ぐ生産者が育成されることになった。

奈良工芸フェスティバルの様子

若手作家による制作実演の様子

●赤膚山元窯の登り窯修理と活用

赤膚山元窯では、国の補助金をうけて、平成27～29年度にかけて登録有形文化財である登り窯の修理を行った。修理中は、市と共催で見学会や修理に参加する体験イベントを実施、修理後も継続して講座やパネル展を実施しており、伝統工芸である赤膚焼の普及や窯元に継承されてきた登り窯の保存・活用につながっている。

登り窯修理の様子

③ 自己評価

なら工藝館を拠点に、官民連携によるイベントを実施することで、受け継がれてきた伝統的な資産であり、また、地域の魅力でもある伝統工芸の価値が再認識されている。

また、若手職人が伝統技術を研鑽する研修の実施などにより、技術が継承されている。

赤膚焼

④ 今後の対応

奈良の伝統工芸を継承していくために今後も継続してなら工藝館活用事業や奈良大茶会珠光茶会開催事業を実施し、また、拠点であるなら工藝館では市のその他のイベントなどに合わせた特別展を実施することで、伝統工芸のより一層の振興に努め、奈良の歴史的風致の維持向上を目指す。

最終評価（歴史的風致別シート）　（様式５）

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年
歴史的風致	10 茶の文化にみる歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	Ⅰ奈良の歴史のつながりや重なりを感じられる「場」を守り、活かし、伝えていく Ⅱ伝統・文化を自ら守り、活かし、伝えられる「ひと」を育む Ⅲ歴史的風致としての「一体的な価値」を共有し、まちづくりや観光振興に展開する		

① 歴史的風致の概要

日本の茶が普及する過程で、鎌倉時代に叡尊が茶を喧伝し、奈良の寺院で茶の栽培が行われ、室町時代には、奈良の主要な社寺で茶盛や茶会が行われるなど、喫茶の風習にも広がりが見られた。それを背景に、村田珠光が簡素簡略の境地「わび」の精神を重んじた「侘び茶」をつくりだし、今日に伝わる茶の湯の礎を築いた。茶の湯が奈良の有力町人の間にも広まり、現在も奈良町の多くの社寺や町家には茶室が設けられており、茶の文化に基づく歴史的環境が形成されている。さらに、それらを舞台に、市民団体や行政による茶会、イベント、教育事業などの活動が展開されるなど、茶が市民の心豊かで潤いのある生活に貢献している。

② 維持向上の経緯と成果

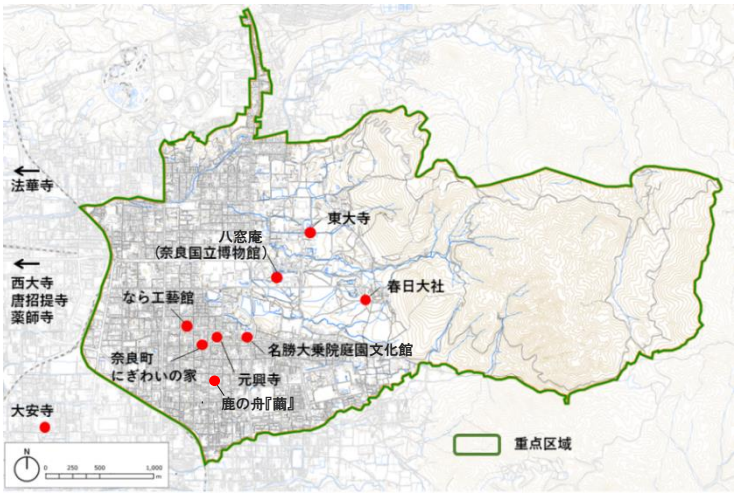
平成25年度から、市内の八社寺の代表者と奈良市長で構成する実行委員会と奈良市観光協会や各茶道流派が連携し、奈良出身の侘び茶の創始者である村田珠光にちなみ、茶道を通して奈良の魅力を発信する「奈良大茶会珠光茶会」を開催している。

会場を、世界遺産を含む社寺や、歴史的な町並みが残る「ならまち」の茶室とすることで、茶の文化の体験だけでなく、奈良の茶の文化の発展の背景となった歴史的環境も親しまれている。さらに、各回で新たな企画を実施するなどの工夫により、周辺の歴史的資産や町並みも含めた周遊観光が促進されている。

会期を観光閑散期である冬に設定しているが、過去11年間で約54,000人が来場するなど、奈良市の観光振興につながっている。

会場	流派
西大寺	表千家 親子で大茶盛
大安寺	裏千家
法華寺	遠州流
元興寺	武者小路千家
春日大社	藪内流
唐招提寺	石州流
薬師寺	宗徧流
東大寺	表千家
八窓庵（奈良国立博物館）	敬游会
奈良町にぎわいの家	池西宗正社中 吉川宗文社中
ならまち工藝館	奈良工芸フェスティバル実行委員会
名勝大乗院庭園文化館	奈良市茶華道連盟
鹿の舟『繭』	武者小路千家 ・伊川健一

上）令和5年度の会場と流派　　下）会場の位置図



③ 自己評価

茶の文化だけでなく、その背景となる歴史的環境や会場周辺の歴史的資産や町並みを楽しむ周遊観光にもつながるなど、茶の文化を視点とした歴史的建造物や伝統的活動をつなぎ合わせた歴史文化ストーリーの発信による新たな観光振興が促進されている。

奈良大茶会　珠光茶会の様子

④ 今後の対応

今後も継続して事業を実施し、茶の文化の発信と歴史文化を核とした観光振興を促していく。また、若い世代の参加を増やすことで、茶の文化を大切に思う人の裾野が広がるよう取り組んでいきたい。

最終評価（庁内体制シート） **（様式６）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年

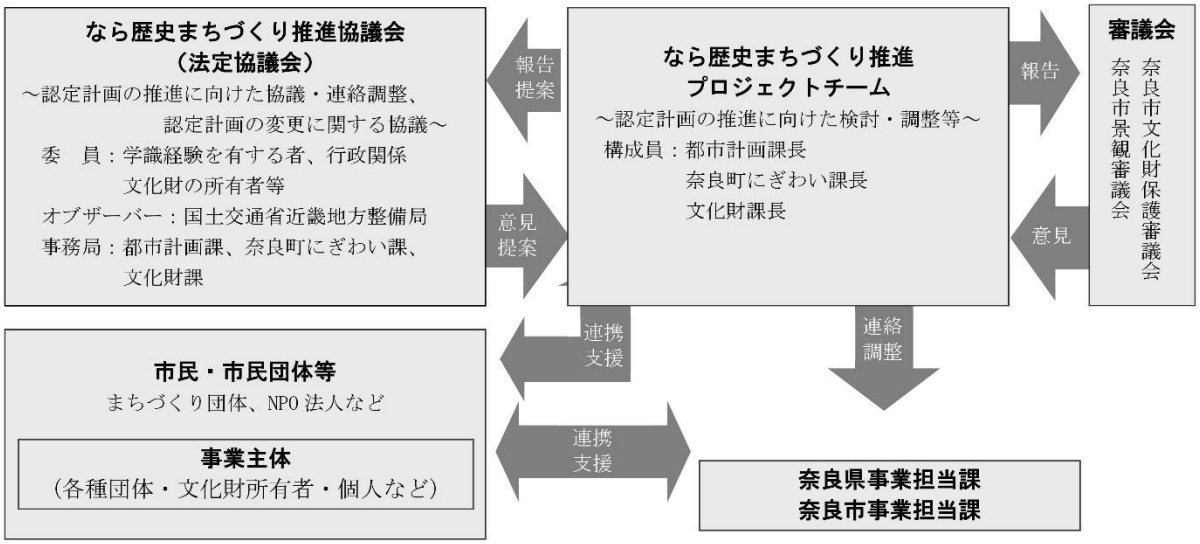
① 庁内組織の体制・変化

計画策定時は、総合政策部、都市整備部、観光経済部、教育委員会事務局で構成される計画作成実務者会議により庁内での連携を図った。

その後の計画実施に際しては、なら歴史まちづくり推進プロジェクトチーム（都市計画課長、奈良町にぎわい課長、文化財課長で構成）が事務局となり、認定計画の推進に向けた検討・調整等を実施している。

また、庁内担当者事務局会議を定期的に実施し、会議後に議事録を作成し、内容を確認するなど情報の蓄積に努め、さらに、関係部局に随時連絡を取り、情報提供などにより連携を図っている。

事務局会議の様子



奈良市歴史的風致維持向上計画組織体制

② 庁内の意見・評価

・事務局を都市整備部、観光経済部、教育委員会事務局で担い、必要に応じて適宜会議を開催することで、都市整備、文化財、歴史資源の利活用など、多岐にわたる分野の取り組みや情報を把握することができている。

・計画に記載している事業については各部署で推進しており、進捗管理は、事務局が各課に依頼する毎年評価シートの作成により、歴史的風致の維持向上に向けた意識向上や共通認識などを図っているが、関係部局で集まる機会がない。計画全体の進捗管理、評価の共有、連携の強化といった点に改善の余地がある。

・最終評価を事務局が連携して実施することで、計画に記載している事業の進捗を再確認することができた。また、現在の担当者は策定当初のメンバーでない者が多く、最終評価の実施により歴史的風致維持向上計画の内容、成果や効果などを理解する機宜となった。

最終評価（住民評価・協議会意見シート） **（様式７）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年

① 住民意見

・奈良市歴史的風致形成建造物保存整備事業補助金利用者アンケート（R6）の結果から（事業No.10）

歴史的風致形成建造物の所有者に対し、令和6年度にアンケートを実施したところ、歴史的風致形成建造物指定制度のメリットとして「代々受け継いだ建造物を次世代に守り伝えることができる」との回答が多く見られた。

また、「指定により建造物に関わる人が増えた」、「にぎわいが生まれた」などの意見もあり、奈良町のコミュニティと町家での暮らしに見る歴史的風致の維持向上に寄与していると考えられる。

・「世界遺産の夜　元興寺寄席」 実施アンケートの結果から（事業No.25）

平成30年度から令和5年度までの実施アンケートにおいて、イベントに参加した理由を尋ねたところ、世界遺産である元興寺禅室で開催されることに魅力を感じたとの回答が多く見られた。自由記述欄においても「世界遺産で寄席を聞けるのは有意義」「元興寺で寄席を聞けて良かった」などといった、奈良の文化遺産を会場とするイベントであることに満足された旨の意見が見られ、歴史的建造物の利活用による観光振興の成果の一つであると考えられる。

・「奈良町見知ル」事業実施報告書から（事業No.30）

令和4年度から令和5年度までに実施したアンケートの自由記述欄には、毎年「町家の中を見学できてよかった」「建物の歴史や大切に使われている様子がわかり良かった」「説明を聞いて奈良のことがますます好きになった」等といった意見が記載されており、奈良町の歴史や生活文化等に触れるきっかけとなっていると考えられる。

② 協議会におけるコメント

・コロナ禍のため一時は動きが鈍化したものの、重点区域やその周辺で活性化が進んでおり、今後も期待できる。そこには京終駅や奈良町南観光案内所の整備も大きかったのではないかと評価できる。
・計画をもとにまちづくりや景観整備が進み、行政と住民の関係性も含め、良い方向に向かっていると感じる。一方で空家問題や歴史的風致形成建造物保存整備事業でカバーしきれない建造物の問題などは引き続き検討が必要である。
・住民が中心となった活動が活性化している点は非常に評価できる。一方で、外国人観光客に対して体験型の観光を提供するなど、民間事業者との連携も必要である。建造物については、奈良町全体のブランドや、市としてのイメージをどう扱っていくかが、今後の課題になる。
・有形・無形の文化財に対して調査が進み、修理や市民参加のイベントなどにつながっている点は大きな成果であるといえる。一方で、普段は公開されていない文化財を公開する場合の管理者の問題や、重要な文化財の文化財指定、ソフト面でのフォローなども検討が必要である。
・まちづくり団体の活動が活発に行われていることは素晴らしいと思う。一方で、それらの団体から見ると自分たちの活動が歴史まちづくりにどのように寄与しているのかがわかりにくい。団体が歴史まちづくりとの関わりを認識できるような機会を設けることも必要と感じる。
・奈良町南においては、京終駅や案内所の整備を通じて、歴史的な資源を生かした地域の活動が盛んになったと評価できる。
・協議会の事務局の連携にて横の連携が強化されたことは評価できる。一方で、行政の関係部署や市民団体、社寺といった様々な団体のハード・ソフト両面での連携が不足している部分もあるため、良好な関係性の構築が望ましい。
・高齢化等による人材不足が顕著になっているため、観光事業者など外部の力を取り入れながら文化財等の利活用を図り、人材不足を補っていけると良い。
・修理等事業後に空き家となる事例をふまえ、事業の募集の際、例えば、どういう条件・理由で応募される、されないのかを把握すること、あるいは完了後の町家の利用担保などを確認のうえ予算枠の優先順位を決める等、募集方法を検討できないか。また、事業後に町家が利用に寄与されているかの確認作業の対応などの工夫ができると良い。

最終評価（全体の課題・対応シート） **（様式８）**

市町村名	奈良市	評価対象年度	H27～R6年

① 全体の課題

1、計画において取り組んでいる事業の多くが、歴史的風致維持向上計画を策定する以前から継続している事業であるため、事業は適切に進捗しているが、事業実施者や庁内担当課において、当該事業と歴史的風致維持向上計画との関連についての共通認識が十分ではない。

2、市が直接実施する事業以外に、市民団体や民間団体、社寺など、さまざまな団体が実施する事業にも、歴史的風致の維持向上に寄与するものは多いが、個別に事業が実施されていて、必ずしも歴史的風致の維持向上を意識したものとはなっていない。そうした事業による歴史的風致の維持向上の効果をさらに高めるためには、市民や民間団体への周知が課題となる。

3、歴史的風致の維持向上を担う人材が不足している。まちづくり団体においては、地区内にさまざまな団体が存在するが、重複するメンバーも多く、参加者の高齢化も進み、実質的な担い手が不足している状況である。

4、歴史的風致を維持向上する資産でもある歴史的建造物について、その保存や利活用に対する取り組みを行っているが、近年、歴史的建造物が次第に減少し、周辺の市街地環境も変容してきている。

5、古くからの観光地である奈良市では、近年増加する外国人等観光客に対応するため、持続可能な観光の観点から適切な観光客数を確保するとともに、歴史・文化を理解してもらうといった観光の質の向上を図る一層の取り組みが求められている。

② 今後の対応

1、事業実施者や庁内担当課に対し、計画の周知のため、進捗評価のフィードバックを実施し、進捗に向けた協議を行うなど、事業の実施体制の見直しに努める。

2、市民団体や民間団体、社寺などが実施する事業の把握に努め、歴史的風致維持向上計画との関連の高い事業については、連携、調整により、さらなる歴史的風致の維持向上に努める。そのために、市民向けのフォーラムなどの実施を検討するなど、情報発信を強化し、広く周知を図る。

3、情報発信の充実や、まちづくり団体などの事業実施者間の交流の促進により、人材育成や人材確保に関する情報共有を強化する。また、事業実施者間の横のつながりを強化することで、連携した取り組みを促進する。さらに、今後、若い人材の担い手の受け入れができるような仕組みを検討する。

4、歴史的建造物の保全の取り組みを継続して実施するとともに、新たな保全や利活用の手法についても検討する。また、景観計画等と連携し、歴史景観地域の良好な景観形成に努める。

5、持続可能な観光の観点から、適切な観光客数を確保するとともに、外国人観光客をターゲットとした誘客・商品戦略を策定、多言語対応などを含めた案内の充実等を推進するなど今後の観光の質の向上に努める。また、良好な景観の保全並びに国際文化観光都市としての魅力向上を目的に、無電柱化を推進する。